

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191900065		
法人名	株式会社 ユニマツ リタイヤメント・コミュニティ		
事業所名	戸田ケアコミュニティそよ風		
所在地	埼玉県戸田市氷川町2-16-23		
自己評価作成日	平成28年2月12日	評価結果市町村受理日	平成28年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokkekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=1191900065&SVC=0001096&BJN=00&OC=01
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 埼玉県介護支援専門員協会
所在地	埼玉県さいたま市浦和区仲町2-13-8 ほまれ会館3階
訪問調査日	平成28年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設7年が経過しご入居者様の状態も変化する中で、今現在出来る事を模索しどなたにも役割を提供して行ける様、創意工夫をしております。同一敷地内にあるクリニックの医師、訪問看護師・訪問歯科医等医療と連携を取り日々の健康管理に力を入れています。隣のスーパーへの買い物、向かいのお寺や近隣の神社に散歩をしております。また、今年の4月より理学療法士によるリハビリも始まり、意欲的に参加されている方もいらっしゃいます。出来るだけご入居者様、ご家族様のニーズに応えられる様努力をしています。ご家族様には年2回の家族会や2ヶ月に1回の運営推進会議の開催、文書や電話を利用しご相談やご意見をお聞きする体制を取っております。家庭的な雰囲気の中、ご入居者様にはのんびりと毎日を過ごして頂ける環境を提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一敷地内にはクリニックが併設されているので安心した生活ができる。また、5階建ての建物の中にデイサービス、ショートステイ、グループホーム、そして有料老人ホームがある。さらに、2階には職員や近隣の子供達を預かる保育所も併設されているので仕事しやすい環境が整備された法人の複合施設である。災害時には、地域の一時避難場所に指定されている。
職員が毎日、手作りで暖かい心のこもった食事を提供し、利用者や家族から喜ばれている。食事作りや準備は、利用者も参加し、今までの家庭生活の一部の役割を担い、これが生きがいとなっている。明るいリビングでは、利用者がのんびりと寛ぎ、職員は常に笑顔で接している。法人全体で研修を行い、情報交換しながら、ケアの質の向上を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく元気あふれる感動あったか介護」をモットーにご入居者様の沢山の笑顔を受けられる様な介護を目指している。医療・職員間の情報の共有に努めている。安心できる環境づくりを行っている。	「明るく元気あふれる笑顔」を共通の理念とし、事務所に掲示している。どうすれば利用者の笑顔を大切にできるかを考え、何をすれば笑顔になってもらえるかを常に職員で検討している。とにかく笑うことを心掛けて、明るい雰囲気を作るように環境づくりに心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院、理髪店、隣にあるスーパーへの買い物、寺院や神社への散歩など行っている。防災訓練など近隣の婦人会へお声かけを行った。	隣接するスーパーへの買物、散歩や理容店に出かけて地域との交流を深めている。さらには、地域の婦人会に声をかけて防災訓練や避難訓練に参加してもらうように声かけし、緊急時、近隣の人達からの支援体制の構築を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所単位でセミナーを開催している。グループ単独では運営推進会議の折にご家族様、地域の方に情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催が出来ている。平日開催の為来館出来ないご家族様には「家族会」やアンケートを行っている。地域包括や市役所の方の出席もあり意見交換の場となっている。	定期的開催される運営推進会議の前に、30分ほど「家族会」を開き、要望や意見を聞いている。運営推進会議には、市、地域包括、家族の参加は得られているが、地域住民、民生委員の参加がなかなか得られない。町会には必ず声かけをしている。当法人は、町会から避難場所として話があり、地域の重要な拠点となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の入居状況の報告を担当者に継続して行っている。その他、疑問、相談等はすぐに行っている。関係作りは出来ている。	市の窓口を訪問し、事業所の状況を報告、さらにはいろいろな課題について相談し指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族了承の下(同意書)入口、居室の外窓の施錠を行っている。入口、窓の開錠はご家族様の同意を得られず開錠には至っていない。ご入居者様の対応について、グループ会議で話し合い、不適切な対応が行われていないか随時確認を行っている。	入口と居室の窓の施錠は、ご家族の希望により行っている。リビングの窓は開錠している。居室の窓については、全く開けないのではなく、10cm位開くようにしている。総合施設であるため、無断外出された場合、行方不明や事故防止のため家族の強い希望もあり、安全最優先として常時施錠している。法人合同の身体拘束廃止を含む研修会に参加している。グループ会議でも伝達講習を開き、話し合い、確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を修了している。後見人制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	「ご利用のしおり」等を使用し、契約書・重要事項説明書を分かり易く説明を行っている。解約時も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情に関するお知らせ」をフロア内に掲示し案内をしている。運営推進会議、アンケートの実施を行いご家族様のご要望を聴き業務改善に生かしている。時には面会時等その都度ご相談に応じている。	運営推進会議や家族会で苦情や意見を聞き、さらにはアンケートなどを実施して、その結果を年1回ご家族に報告している。職員はその意見などについて話し合い、業務改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回グループホーム会議を開催し職員同士意見を述べる機会を設けている。改善点等はそこで決定し変更するようにしている。管理者は随時、職員からの意見を聞きグループホーム会議にかけるようにしている。	職員にアンケートを取り、意見を出してもらい、グループホーム会議で話し合っている。また、管理者が個人面談を行い、職員の意見を聞く機会を設けている。管理者には何でも相談しやすい信頼が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務予定、実績を把握している。本人の意見等、随時聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があった時に職員に参加を促し、研修を受けた職員からの伝達研修も行っている。社内研修が殆どとなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との関係も希薄な物となっている。セミナーや研修会のお知らせ等頂くが出席できない事が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅に訪問しご本人に面接を行い、身体状況、精神的な部分まで聞き取りをさせて頂いている。入所当初はご本人の言動に留意し介護に当たる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、ご本人とは別室でご家族様との面談を行っている。サービスが適切に提供できる様、面会時や電話等を利用しお話を聴く様にして不安の緩和に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの説明を行っている。他のサービスを求められたら施設等の案内もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居されてからご本人様の日常を観察し”出来る事”把握に努めている。ご本人様の状態に合わせ役割を提供している。共同生活の中で孤立しない様職員が仲立ちをするよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時、又は電話を利用し相談、報告をしている。ご家族からのご意見、指示を頂く事もある。「家族会」等に参加させて頂き家族の方同士にも良い関係性が築ける様計らっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居から年数が経過し馴染みの場所が少なくなっている。理髪店や買い物などご本人様のご希望があれば応じるようにしている。知人の方の面会のある。ご家族のご協力を得て知人宅へ出かける方もある。	開設後7年が経ち、利用者が今まで行っていた馴染みの場所も少なくなってきた。施設の隣のスーパーに家族と一緒に出かけたり、仕事をしていた時の同僚や友達が訪ねてきたり、訪問して馴染みの人達と交流が継続出来るよう、家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う合わないを職員が把握し、散歩や食事席等の配置をしている。ご利用者様の間に職員が入り作業等を通じご利用者様同士関わりが出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡をしてご家族を通して相談等に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話が出来る方には直接お話を聴いている。お話が出来ない方に対しては普段の言動から拾い出したり、ご家族様にご協力を頂き、ご本人の意向を拾い出し担当者会議等で職員と検討を行っている。	日々の様子や、利用者との会話などから拾い出したり、習慣的に行っていることを把握し、担当者会議で情報交換を行い検討している。ご家族には面会時や電話などで聞き、把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の訪問調査より生活歴や性格等の聞き取りをご本人やご家族より頂いている。入所判定会議においてまた、入居直前にも職員に説明を行っている。入所後もご家族様との会話の中で色々教えて頂き、担当者会議で職員に伝達を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ動いて頂ける様に個別にお声かけを行っている。掃除、洗濯、調理など部分的だけでも参加できる様支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の参加は頂けていない状況。ご本人様の言動をからご希望を頂いている。が家族様には見直し前に文書でご要望を頂いたり、面会時お話を聞いたりしている。主治医にも往診時の指示や助言も取り入れるようにしている。	3ヶ月毎に見直しと評価を実施している。本人、家族から意向を確認し、担当者会議を開催し、更新時の計画書を作成している。評価には主治医からコメントをいただき、全員で評価を行っている。評価表には変更した部分が一目でわかるように記録にも工夫が伺える。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況を個別に記録し、朝夕の申し送り、また、申し送りノートを利用し職員間での情報の共有化を図り、プランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスや有料老人ホーム主催のボランティアの方々の慰問にはほぼ全員の方で参加をさせて頂いている。反対にグループホーム主催の催し物、ボランティアの慰問には他部署をご利用の方々に参加を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	継続していた月1回の図書館へは周囲の諸事情により出かける回数が少なくなっている。地域の催し物に出かけられるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に今後のかかりつけ医に関しては納得を頂いている。定期受診時にご本人の状態を把握報告している。状態に異変が生じた場合には電話や直接医師に相談をして指示や助言を受けている。	利用者のほとんどが在宅総合診療(同敷地内のクリニック)を希望し、契約をしているが、病状により今までのかかりつけを継続している方もいる。本人、家族の意向を大切にしている。同敷地内のクリニックを受診し、訪問看護を週1受け、継続的に耳掃除、爪切り、小さな傷の手当て、点滴などを医師の指示により行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による健康管理を受けている。その都度、入居者様の健康状態について報告し相談や助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は職員がご本人とご家族に面会をしている。病院の相談員、看護スタッフを通じ入院中の状態の把握、退院の目途等を聴取する。 退院が決まると計画作成担当者が再度、面接を行なっている。協力病院を中心に関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は終末期の方はいない。入所前より終末期の介護について説明をしている。また、認知症が進行してきた方についてはご家族に随時相談をさせて頂いている。	入所前に、重度化や終末期の介護について説明をしている。緊急時のマニュアルを整備し、大元の法人へ24時間オンコールで連絡が取れる。これにより、緊急時の相談と対応の指示を受けることができる。終末期には、同一建物内の有料老人ホームで家族と一緒に泊まれる部屋があり、家族と共に過ごすことができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルはできているが全職員が対応できるところまでは現在も至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、近隣の住民の方、ご入居者様のご家族に参加頂いて消防訓練を行った。	消火訓練を年2回、消防署立会いのもと訓練を施設全体で実施している。町会から災害時の際の避難場所として施設提供の依頼があり、地域の重要な拠点としての役割を担う。今後、訓練の際には、婦人会や町内会の役員さんを通じて呼びかけをして、参加していただくことを検討している。施設2階に多くの食品や水などが備蓄してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけはグループホーム会議等で話し合ったり、日々の業務申し送り等で注意を呼び掛け、ご利用者様に失礼の無い様心がけている。不適切な声かけがあった場合にはその都度注意をしている。記録では他の入居者様はアルファベットを使用して記録をしている。	居室のドアはプライバシーを守るため、必ず閉めるように心がけている。トイレ誘導などは、さり気なく、他の利用者に気付かれないように配慮しながら行っている。個別の名前の記入してある表は、表に出さないよう注意し、担当者会議等も名前を出さないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをお誘いする時は必ず、ご本人の意思確認を行っている。買い物の際や毎日のお茶の時間にお好きなものを選択して頂く様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課とは別に入居者様の日々の体調を考慮して生活をして頂いている。突然の買い物など外出などの希望にも出来るだけ応じるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設内で髪染めをしたり、時々お化粧品をしたりしておしゃれを楽しんで頂ける様にしている。継続的にご本人の希望される化粧品を買いに出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ毎日のように調理参加や3回の食事の片付けをして頂いている。出来ない方にはテーブル拭き等出来る事をして頂いている。	家庭的な料理や、利用者の好みを聞き、楽しみの一つである食事が楽しく、おいしく食べられるよう、手作りを心掛けている。調理や味付け、盛付け、配膳、おしぼり配り、後片付けなど、出来ることは手伝ってもらっている。食事が進まない利用者は主治医に相談し、調味料に変化をつけたりして工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量、水分の摂取量の記録を行っている。好みのお茶や飲み物を提供している。食事等の摂取量は随時、主治医に相談し助言を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い口腔ケアを行っている。ご自分で出来る方はご自身で頂き、介助が必要な方にはその方の状態に合わせ介助を行っている。夕食後、義歯洗浄剤を使用し洗浄を行っている。必要に応じ訪問歯科医に受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄のパターンを把握している。その他、ご本人の合図を見逃さない様にしてトイレ誘導を行っている。夜間もその方の状態に合わせてトイレ誘導を行っている。随時担当者会議を開催し対応を検討している。	排泄表を確認し、排泄パターンを把握してトイレのサインを見逃さないように注意して、トイレへの声かけや誘導をおこなっている。日中、夜間、自分でトイレをしていただく方向で対応し、支援をしている。便秘の方には内服の処方以外に、朝、ヨーグルト、プルーン、生の果物などを出している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用い排便の状況を把握している。便秘の方には多めの水分を取って頂く。散歩や体操で運動をして頂く様促している。排便状況を主治医に報告して医師の指示の下、便秘薬の服薬、調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の開始時間は決めているが、ご本人の希望に合わせてゆっくりと入って頂ける様にしている。入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯にも入って頂いている。	入浴は3回で、入浴時間は開始時間のみ決めているが、ご本人の希望時に、ゆっくりと入れるよう配慮している。利用者がどの程度出来るのか様子を見せていただき、把握して、利用者の残存能力を活かし、出来ることは自分でしてもらっている。季節に合った入浴剤をコンスタントに変えながら、季節感も味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は入居者様個々で決めて頂いている。眠くなるまでリビングで過ごされていたり、ご自分で決められた時間で就寝されている。夕食後、自室でテレビを見たり、読書をされたりしてご自身の時間を過ごされている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人のファイルに綴じてあるが、職員全員の理解は得られていない。その為、受診前、医師へ報告する事、受診後、医師からの助言等を報告書を用いて朝夕の申し送り時に伝達を行っている。また、個人用の服薬管理表とチェック表を作成し確実に服薬して頂けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をお一人お一人持って頂けるようプランに挙げ支援をしている。趣味などもご家族にご相談の上生活の中に取り入れる様工夫をしている。気分転換には散歩、買い物等に出かけて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に応じられる様にしている。ご家族の協力は得られているが地域の支援は得られていない。	天気の良い日は向かいのお寺に出かけて、境内に咲いているお花を觀賞したり、近くの公園に散歩に出かけている。隣接のスーパーに、希望する化粧品や日用品の買物と一緒に出かけている。おやつレクでは、車で好きなケーキを食べに出かけて行き、利用者からは好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様に予め了解を得て小銭を持って頂く事は可能としている。お預かりしているお金で希望があれば買い物に出かけ、出かける前にお金をお渡しし、好きなものを選び支払いをご自身でして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	予めご家族に了承を得て制限を設けていない。ご本人の希望時電話番号を押すなどの支援、又は電話の取り次ぎを行っている。暑中見舞い、年賀状など書ける方にはお名前などを書いて頂いたり、代筆などの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁面の装飾を変えたり、入居者の方がに作って頂いている。季節の行事も取り入れている。室温もエアコンをこまめに調整し寒かったり、暑かったりしない様にしている。	広いリビングは窓が大きく、開放的で明るい。キッチンオープンで、リビングのソファにゆったりと座り、寛いでいる利用者がある。キッチンで食事の準備をしている利用者と職員。空間の中で時間がゆっくりと流れている。ユニット毎にカーテンやソファの色が違う。職員が利用者と一緒に創作した作品が貼ってある。トイレのドアには、分かりやすく、公共の場で見慣れたトイレマークが表示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブル他、ソファも用意して気の合った者同士会話が楽しめる様にしている。ソファも一人掛けのものもあり一人で過ごせるような配置にしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは自宅で使用されていたものを持参して頂くよう促している。ご自宅での生活様式を出来るだけ変えない様にして頂いている。	居室には使い慣れたベッド、家具などを置き、家族の写真やお花が飾ってあり、自宅で暮らしていた時と同じように配置してあり、自宅の生活の延長になるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様のADLを随時把握し過剰な介護が行われない様にしている。安全に過ごして頂ける様環境整備をしている。		

目標達成計画

作成日: 平成 28年 4月 22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	開設から7年が経過しているが、地域の方々との連携が稀薄である。災害など有事の際に支障が生じるのではとの懸念がある。	運営推進会議や施設の行事に参加して頂ける。	町内会の会合や行事に参加をして顔なじみになる。お知らせを町会長だけでなく、近隣の方にも配布する。	12ヶ月
2			年2回の施設での防災訓練に近隣の方に参加して頂ける。	婦人会、町会の防災担当の方に声掛けを行う。	12ヶ月
3		研修の参加が少なく、研修で学んだことが他の職員まで届いていない。	研修を受け職員全員に伝えることが出来る。	GH会議やユニット会議等の時間を有効に使い、少人数ずつでも研修の場を設けていく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。